

教えて  
ドクター

# 「切らずに治す、 新しい注射療法

かんやまクリニック  
完山泰章先生



国立香川医科大学(現香川大学医学部)卒業後、小牧市民病院、国立がんセンター中央病院、岡崎市民病院外科部長などを経て、平成20年同院開院。日本大腸肛門病学会認定 大腸肛門病専門医、指導医。医学博士。

人には言いにくい「痔」の悩み。しかし、日本人の3人に1人が、痔を患っているといわれ、老若男女、誰もがかかる可能性があります。痔は、早期受診と正しい知識を持つことが大切。今回は「切らずに治す」という新しい治療法と、日常における痔の予防について、北名古屋市にある「かんやまクリニック」院長・完山泰章先生に聞きました。

**治療時間は15分〜20分  
日帰り治療も可能**

痔の疾患には、「痔核 A法」が注目されている(いぼ痔)、「裂肛(切れ痔)」「痔ろう(あな痔)」などがあり、最も多いのが「痔核(いぼ痔)」です。近年、これを切らずに治す、新しい治療法「オン注硬化療法(ALT)

これは、痔核が直腸内にできる「内痔核」に限っての治療方法。痔核に直接注射をし、切らずに痔を硬くして粘膜に癒着・固定させるというも

のです。直腸は、知覚神経がないため、痛みはほとんど感じません。

ただ「四段階注射法」という、高度な技術を必要とするため、治療ができるのは特別な講習を受けた一部の専門医に限られています。

治療時間も短く、約15分〜20分で済みます。これまで、メスで切るという手術しかなかった重

度の内痔核にも対応でき、現在は、日帰りの外来治療も可能に。治療を受けた患者さんの多くが、治療の翌日には出血や脱出などの症状がおさまり、日常生活へ復帰されています。

また、入院がほとんど必要ないため、経済的負担も少なく、患者さんにとって、大きなメリットといえるでしょう。

また、入院がほとんど必要ないため、経済的負担も少なく、患者さんにとって、大きなメリットといえるでしょう。



## 痔は生活習慣病 排便習慣を見直して

痔は、生活習慣病であり、最大の原因は、便秘

や下痢です。便が出にくくなると、排便時のいきみで、肛門に負担がかかります。それを繰り返し続けた結果、痔になってしま

痔の予防で、一番大切なことは、規則正しい排便習慣を身に付けることです。これは予防だけで

なく、治療や再発防止など、すべての基本といえます。

まずは、日常生活の中で、自分自身の生活習慣にあった、排便リズムを心掛けてみることから始めましょう。

また、痔には、精神的な面も大きく影響しますので、なるべくストレスをためないように心掛ける努力も大切です。

「痔の病気は、恥ずかしくて誰にも相談できない」と不安に思っている方が、ほとんどではないでしょうか。

痔は、決して特別な病気ではありません。しかし、大腸がんなど、重大な病気が潜んでいるケースもあり、自己判断をするのは、禁物です。不安がある人は、一人で悩まず、専門医に気軽に相談してください。